

大きく育ってね」。三浦市立三崎小学校(同市三崎)の児童が21日、サザエの稚貝の放流を体験した。三崎漁港の岸壁保全工事を行う建設会社「鈴木組」(真鶴町)が漁業への理解を深めてもらおうと企画した。

3年生37人が、遊覧船に乗って出航。みうら漁業協同組合が漁場としている宮川湾の海上から、サザエの稚貝2千個を放流した。稚

サザエ養殖理解深めて

三浦で児童
稚貝放流

貝は県栽培漁業協会(三浦市三崎町城ヶ島)が提供。鈴木組が行っている老朽化



サザエの稚貝を放流する子どもたち＝三浦市の宮川湾

した岸壁の保全工事の様子も見学した。

放流の後は、養殖によって安定的にサザエが供給されていることなどの説明を受けた。子どもたちは「サ

ザエは最大でどれくらいの大きさに成長するの」などと熱心に質問していた。

(川口 肇)